

建設新

2014

1月24日

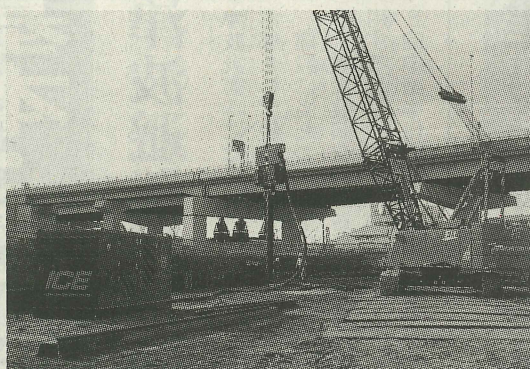
金曜日

カツウラ建機(札幌市)

油圧式バイブロハンマーが 復旧・復興工事で活躍

高い打込能力で作業効率向上

カツウラ建機(札幌市勝浦隆博社長)が導入している油圧式バイブロハンマーが、東日本大震災の復旧・復興工事をはじめ全国で活躍している。オランダの油圧バイブロメーカー・ICE社製の振動式杭打抜機械で、国産の油圧バイブロハンマーに比べ2倍以上の起



仙台市内の現場で活躍

振力(杭を打つ力)を持つという高い打込能力が特徴。作業効率の大幅な向上に貢献する。国内の建機レンタル会社では同社のみの取扱いとなっており、同社は需要に応じて保有台数を増やしていると考えだ。

バイブロハンマーは鋼矢板や杭を地中に打ち込めるのに対し、カツウラ建機が取り入れているICE

む機械。クレーンで吊り下げたバイブロハンマーから鋼矢板などに振動を伝え、打ち込みや引き抜きを行う。主に電動式と油圧式がある。

ICE社の油圧式バイブロハンマーは「ICE18RF1ts」が110ト、さらに力のある「ICE28RF」が160トと2倍以上の起振力を持つ。同等の能力を持つものとしては電動式タイプもあるが、電動式は本体重量が大きく、吊り下げに用いるクレーンも大型化するためコストがかかるという。これに対して、ICE社の油圧式タイプは高い打込能力を持つとともに、電動式で懸念されるような過負荷によるモーターの焼き付きがなく安全であり、連続的な施工も可能だ。

一般的に日本製の油圧式バイブロハンマーの起振力は45〜60トであるのに対し、カツウラ建機が取り入れているICE

用されている。カツウラ建機の勝浦聖次会長は、「他社製品ではN値30以上の硬い地盤になると補助工法が必要だが、ICE社の製品はN値50〜60ほどのさらに硬い地盤でも単独で対応できるほど能力が高い」と有用性を強調する。

同社では現在3台を保有しており、勝浦会長は、「保有機械はフル稼働の状態。東北では復旧・復興工事が本格化しているが、護岸や港の整備でいまだ手つかずのところもあり、またまた需要が見込まれる。このため、さらに保有台数を増やして復興の加速に貢献したい。想定は6〜7台だが、需要によってはそれ以上も視野に入れている」と話している。